

---

## 2009年度冬学期 第3回 物性セミナー

---

### 「摩擦の物理」

講師 松川 宏 氏 (青山学院大学理工学部)

日時 2009年 11月 6日 (金) 午後4時30分～

場所 16号館 827

摩擦は最も身近な物理現象の一つであり、その舞台は原子スケールから我々の日常生活のスケール、さらには地震という地球的スケールにまで及ぶ。その振る舞いは古くから調べられてきたが、多くの基本的な問題が未解決である。その原因として摩擦が起こる固体表面は制御が困難であったこと、実験手段が限られていたこと、などがあげられる。しかし近年では表面の精密制御が可能となり、摩擦顕微鏡など新たな実験手段が開発され、摩擦の研究は新しい段階に進んでいる。一方、界面摩擦に類似の現象は、密度波や超伝導体中の磁束格子のピン止めと運動など、固体内でも観測される。これらの系に対しては多様な実験手段があり、その研究は固体間の滑り摩擦に新しい光を与えるものと期待される。しかし、それらの機構もまだ不明な点が多い。 セミナーでは様々なスケール・舞台でのこれまでの摩擦研究から最近の進展を概観したあと、我々の研究を紹介したい。

今後の予定：

11月20日	吉本芳英氏 (東京大学物性研究所) TBA
11月27日	堀田貴嗣氏 (首都大学東京大学院・理工学研究科) 「重い電子：遍歴と局在が織りなす古くて新しい問題」
12月4日	國仲寛人氏 (中央大学理工学部物理学科) 「微小系衝突に見られる異常反発」
12月18日	河野昌仙氏 (物質・材料研究機構) TBA
1月15日	高橋大輔氏 (理化学研究所) TBA
1月22日	上妻幹男氏 (東京工業大学 大学院理工学研究科) TBA

物性セミナーのページ

<http://huku.c.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/FSwiki/wiki.cgi/BusseiSeminar>

物性セミナー世話人： 加藤雄介 堺 和光 福島孝治 前田京剛 簀口友紀